KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立農用洗浄機
WE355
WE355K

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注　意

- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

はじめに

共立農用洗浄機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この機械を洗浄および農薬散布以外の目的で使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。(　)内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

目 次

はじめに 2
警告表示ラベルについて 3
各部の名称 4
正しい作業のために 8
組立 15
運転前の準備 16
運　転 17
噴霧作業の開始・停止 19
輸送・移動時の注意 20
点検・整備 21
故障対策 23
長期保管 24
吐出ホースの圧力降下図表 25
仕　様 26

警告表示ラベルについて

- この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図の位置に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

1

⚠ 警告

必ず保護めがね防毒マスク保護衣を使用してください。農薬をあびるおそれがあります。

⚠ 注意

取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
原動機とセットするときはベルトカバーをつけてください。
回転部には触らないで下さい。
けがをする恐れがあります。

X505-002170

部品番号：X505-002170

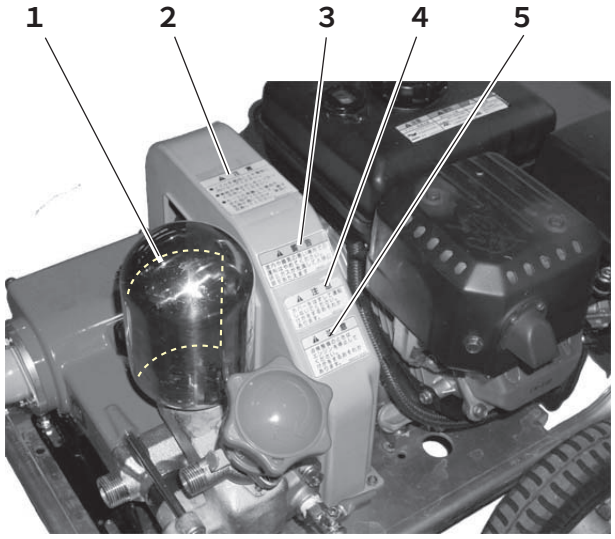
2

⚠ 注 意

- ノズルを絶対に人や動物に向けないでください。
- 噴射作業はガンをしっかりと支持してください。
- ホースの損傷した場合や、折れ曲がったホース、継手金具の悪いものは、新品と交換してください。

890016-03500

部品番号：890016-03500



3

⚠ 警 告

室内や換気の悪い場所での運転はやめてください。
排気ガスが充満して人体に害をあたえます。

部品番号：890084-00500

4

⚠ 注 意

カバーをはずして運転しないでください。
けがをするおそれがあります。

部品番号：890016-01100

5

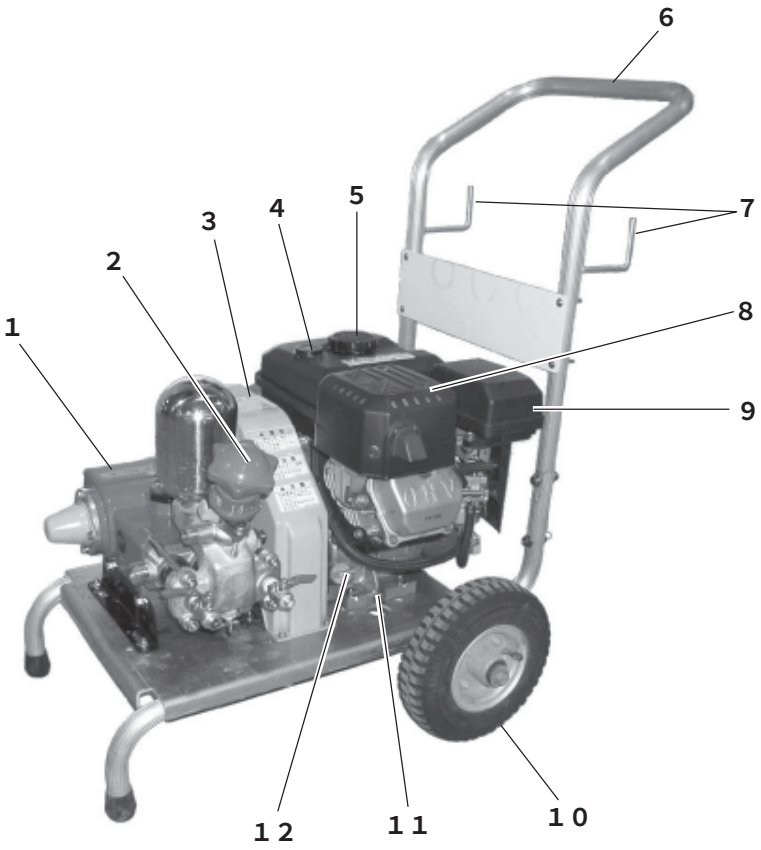
⚠ 注 意

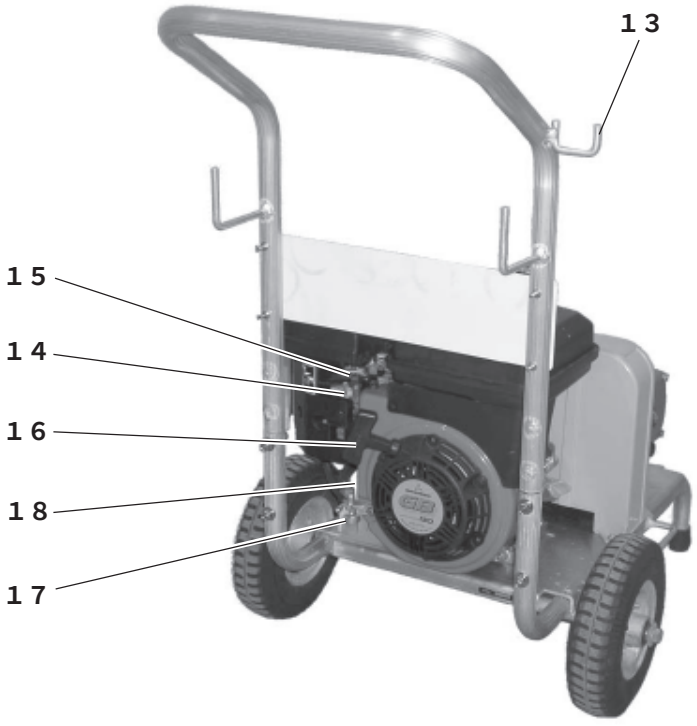
点検整備のときはエンジンを停止してください。
けがをするおそれがあります。

部品番号：890016-02300

各部の名称

本体

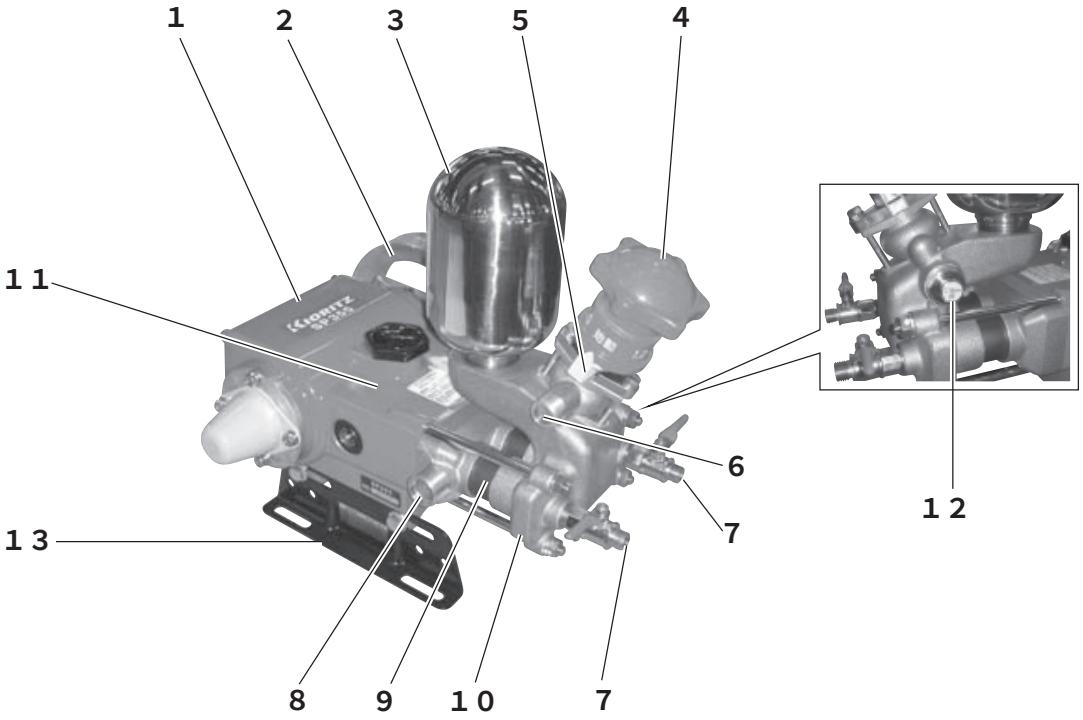




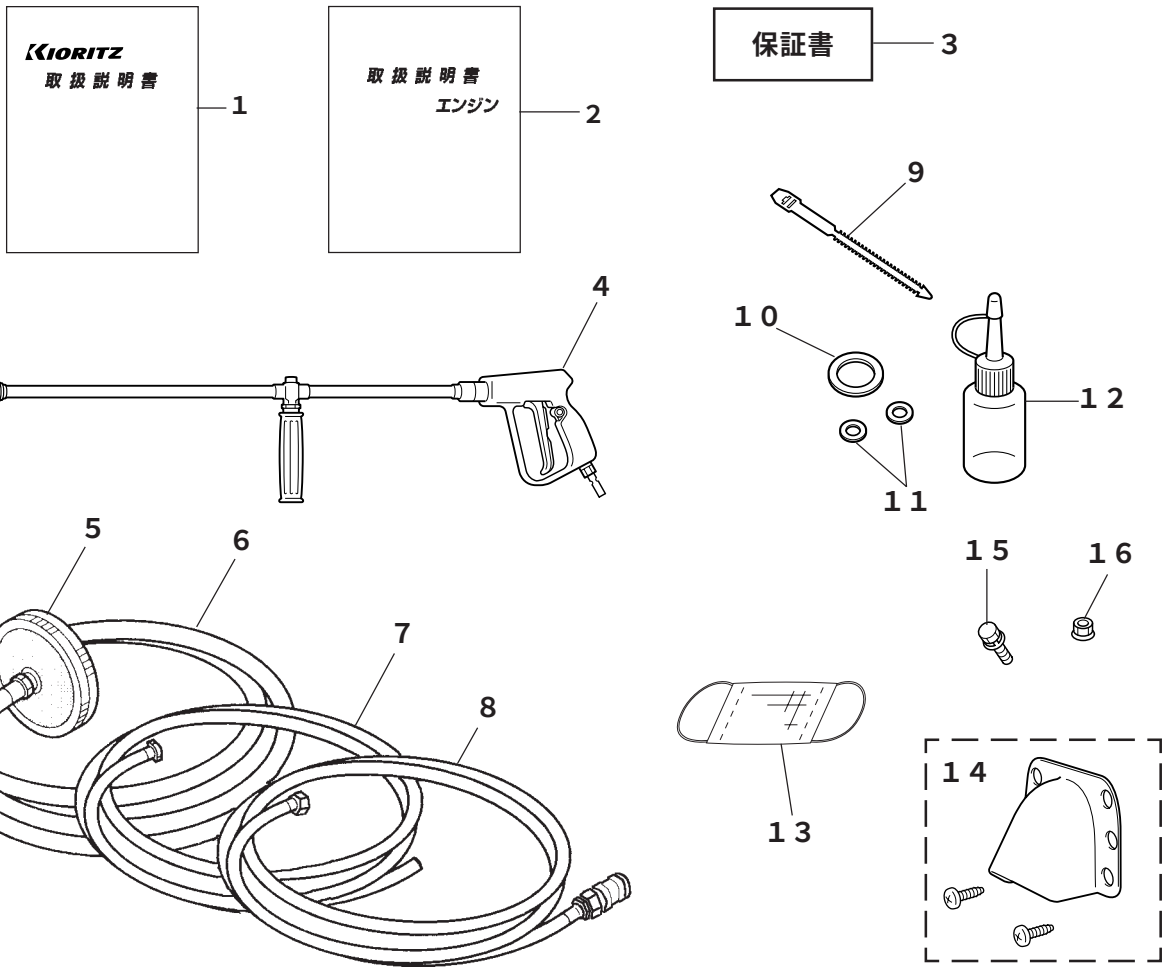
各部の名称（本体）

１．	動噴（SP355）	―― 水または薬液を吸込み、加圧し送り出します。
２．	調圧ダイヤル	―― 動噴の吐出圧力を調節するものです。
３．	ベルトカバー	―― 作業者がＶベルトに触れることを防ぎます。
４．	燃料レベルゲージ	―― 燃料の残量がわかります。
５．	燃料タンクキャップ	―― 燃料タンクを密閉するふたです。
６．	ハンドル	―― 移動時に使用します。
７．	ホース巻き	―― 機械を移動するとき、または保管するときに吐出ホースを巻いてください。
８．	マフラカバー	―― 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
９．	エアクリーナカバー	―― エアフィルタを防護するカバーです。
１０．	ホイールタイヤ	―― 移動時に使用します。
１１．	エンジンオイルドレン	―― エンジンオイルを抜く所です。
１２．	エンジンオイル給油口キャップ	―― エンジンオイルの給油口のふたです。エンジンオイルの補給はこのキャップを外してここから給油します。キャップの裏にオイルレベルゲージが付いています。
１３．	トリガランス受け	―― トリガランスを掛けておくところです。
１４．	チョークレバー	―― 冬期およびエンジンが始動しにくいとき使用します。
１５．	スロットルレバー	―― エンジンの回転数を調節するレバーです。
１６．	スタータグリップ	―― エンジンを始動するときに使用します。
１７．	燃料コック	―― エンジンを使用するとき開き、終了時は閉じておきます。
１８．	ストップスイッチ（エンジンスイッチ）	―― エンジンを停止するスイッチです。

動噴


1
2
3
5
4
11
6
12
13
7
8
9
10
7

付属品


KIORITZ
取扱説明書
1
取扱説明書
エンジン
2
保証書
3
9
4
10
12
11
5
6
15
16
7
8
13
14

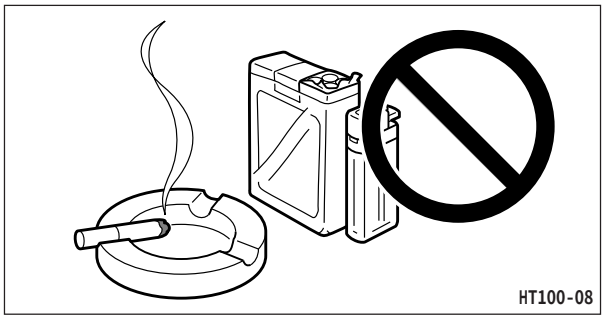
各部の名称（動噴）

１．クランクケース ―― 動力を受ける役割のクランク軸を、保持するケースです。
２．プーリ ―― 動力をクランク軸に伝えます。
３．空気室 ―― 中に空気があり、動噴の脈動を少なくします。
４．調圧ダイヤル ―― 動噴の吐出圧力を調整するものです。
５．圧力指示具 ―― 調圧ダイヤルの圧力表示を、この金具に合わせます。
６．余水口 ―― 余水ホースを接続します。
７．吐出口 ―― 吐出ホースを接続し､コックを開くと水や薬液が送り出されます。
８．吸水口 ―― 吸水ホースを接続します。
９．シリンダ ―― 吸込まれた水や薬液を加圧する部位です。
１０．排水弁室 ―― 排水弁が組込まれています。
１１．クランクケース注油口 ―― クランクケースにオイルを入れる所です。
１２．エア抜きボタン ―― 水や薬液を動噴に吸込ませるときに押します。
１３．架台 ―― 洗浄機本体に動噴を固定する台です。

各部の名称（付属品）

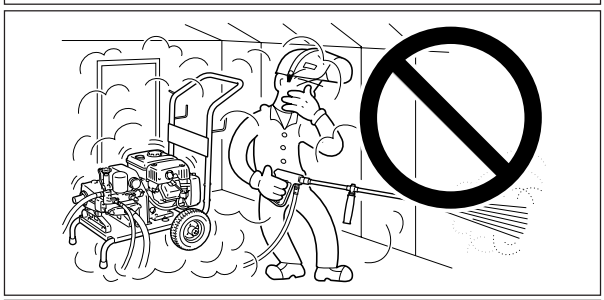
番号	部　品　名　称	個数
１	取扱説明書（製品）	１
２	取扱説明書（エンジン） WE355‥三菱 GB130LN ， WE355K‥クボタ GR130-E-G	１
３	保証書（製品）	１
４	トリガランス	１
５	吸水ストレーナ	１
６	吸水ホース	１
７	余水ホース	１
８	吐出ホース	１
９	吸水余水ホース束ねバンド	１
１０	吸水ホース口金パッキン（スペア）	１
１１	吐出ホースパッキン（スペア）	２
１２	オイラ（給油用）	１
１３	防除マスク（２個入り１パック）	１
１４	デフレクタ（排気の方向を変えます。WE355K‥クボタエンジンに付属しています。）	１
１５	セットボルト(P.15 参照)	４
１６	フランジナット（P.15 参照）	４

正しい作業のために



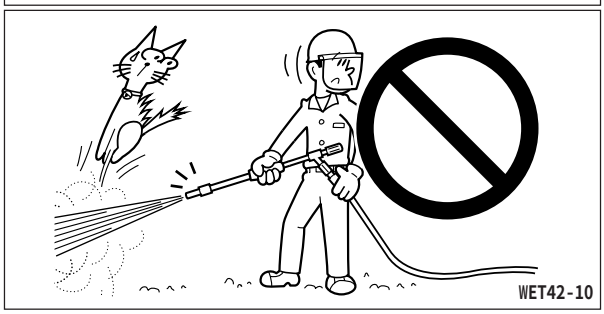
⚠ 危　険

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



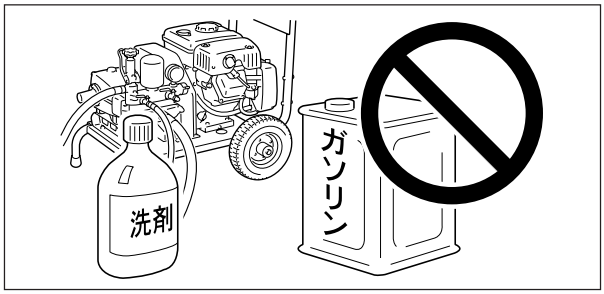
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



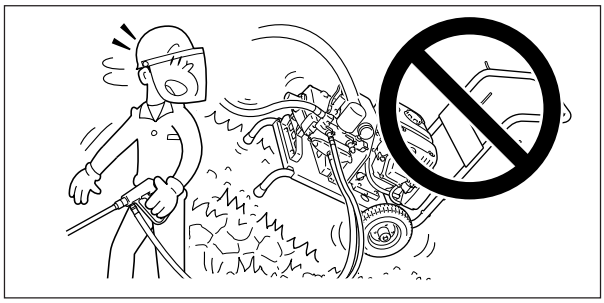
⚠ 警　告

人、動物、電気製品、および本機には噴射しないでください。



重　要

動噴には、水と薬液以外のもの（汚水、湯、洗剤、ガソリンなど）を吸込ませないでください。



⚠ 注　意

機械を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



からだの状態

- **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。**

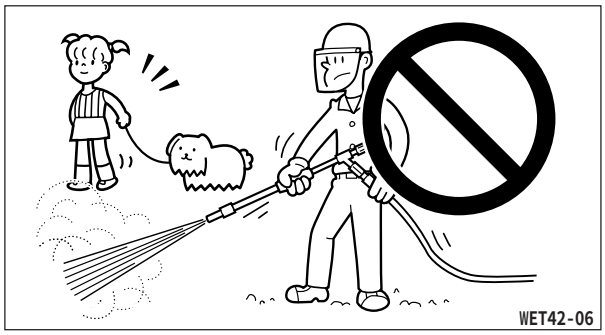
洗浄機としてお使いになる場合

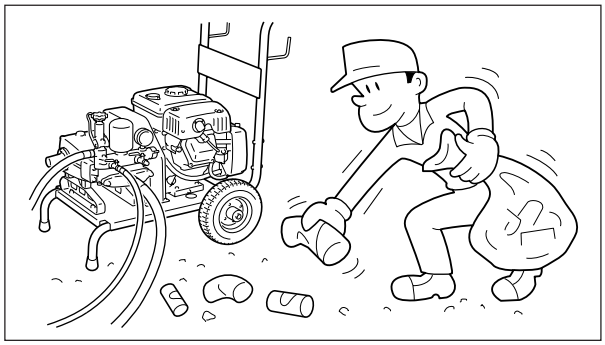
重　要

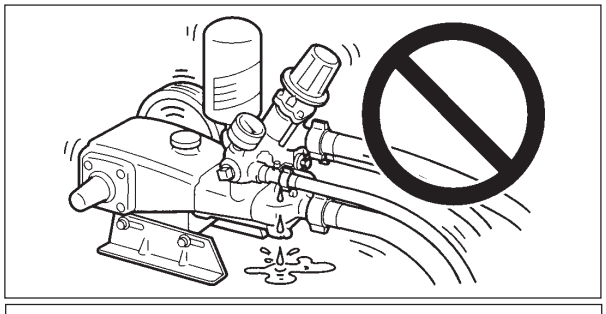
以前に本機で農薬の散布作業をしたことがある場合､作業後の動噴および配管内の洗浄が不充分で農薬が残っていると洗浄するものに農薬がかかります。
本機を農薬散布に使用した場合は、必ず使用後に動噴および配管内を充分洗浄してください。

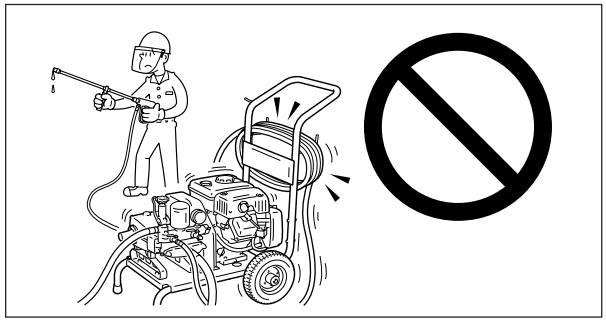
⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起きることがあります｡正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。









服装について

- 必ずフェースシールドを付けてください。
- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで作業を行なわないでください。
- タオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。

作業前の点検

⚠ 注　意

子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。

- 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。

- ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。

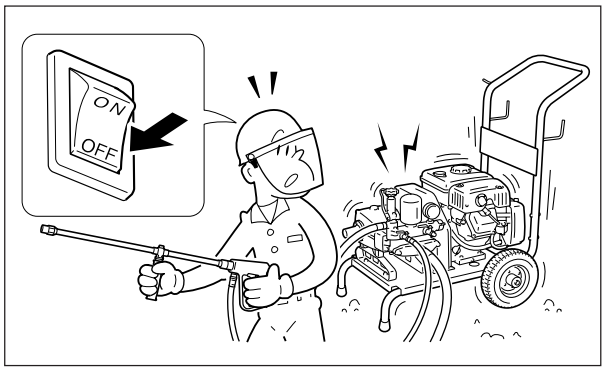
重　要

洗浄を行なう前に、吐出ホースをホース巻きから外してください。

作業中の注意

重　要

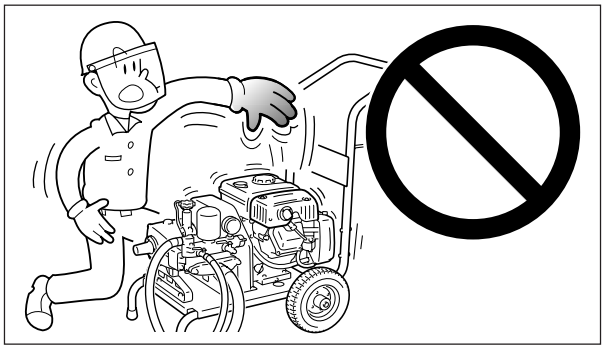
- ５分間以上、カラ運転をしないでください。
  動噴の寿命を縮め、故障の原因となります。
- 長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動噴の故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。



⚠ 警　告

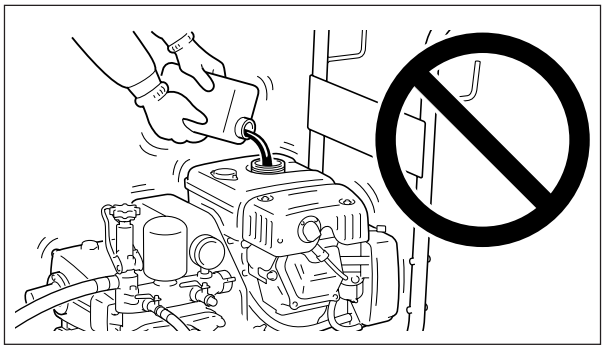
危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。

- 回転が不安定な場合や異常な音がした場合は、すぐに作業を中止してください。



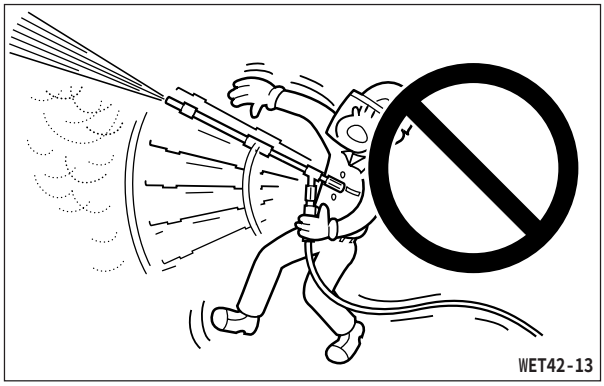
⚠ 警　告

運転中､停止直後は本体の上部が熱くなっています。触らないようにしてください。



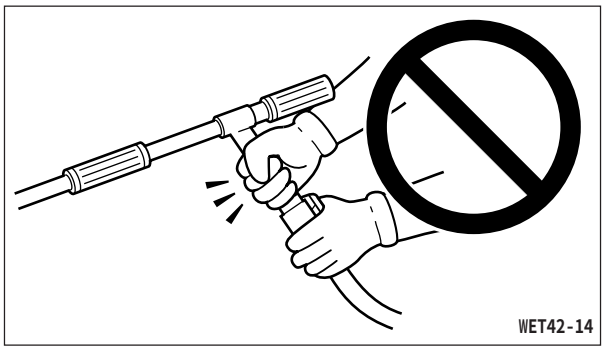
⚠ 警　告

燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
燃料をこぼした場合は､すぐに拭き取ってください。

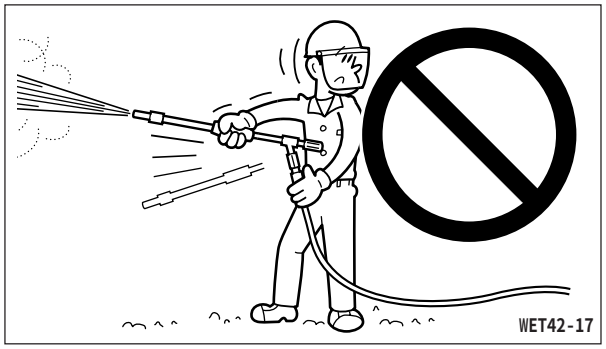


⚠ 注　意

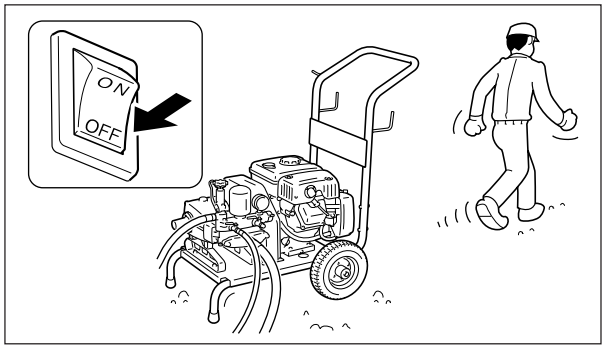
トリガランスをしっかり保持してください｡反動がきたとき、思わぬ方向へ動くことがあります。



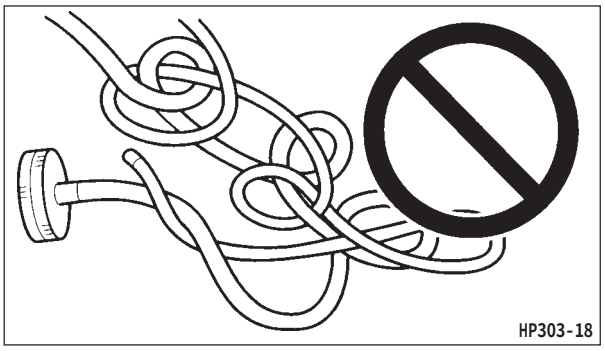
● 作業中はトリガランスのグリップ以外は持たないでください。思わぬ方向へ水または薬液が噴射されることがあります。



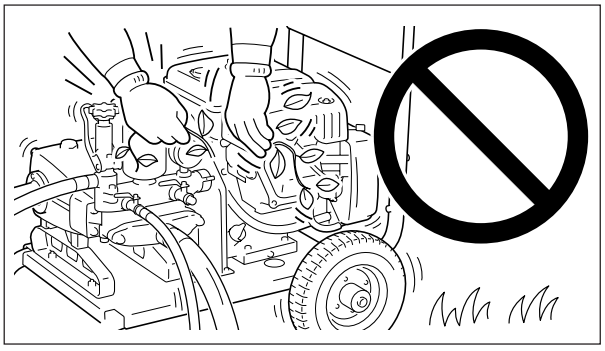
● 作業中は、トリガランスの先を見てください。作業以外の場所を見るときは、作業を中断してください。



● 洗浄機から離れるときは、エンジンを停止してください。



● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。



● 機械に絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。

農薬散布について

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
  農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

⚠ 注　意

作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、機械が故障したりご利用になる方がケガをすることがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

● ここに書かれていない機械の取扱いに関する一般的な注意事項については「洗浄機としてお使いになる場合」（9ページ）に準じていますので、そちらも合わせてよく読んでください。

農薬使用上の留意点

● 農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。

● 農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

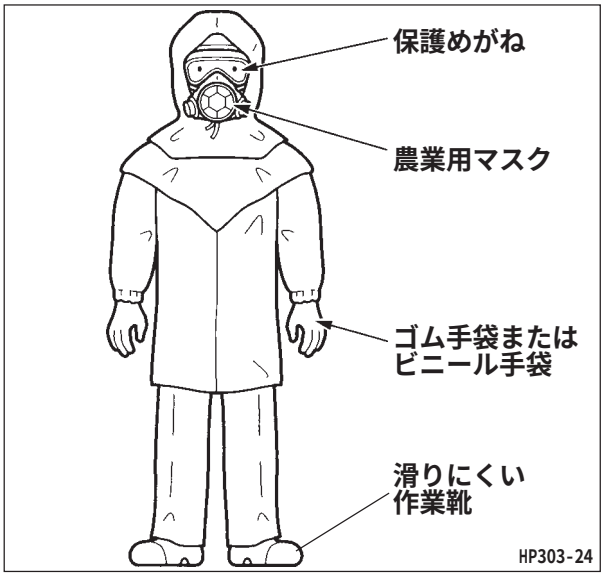
重　要

● 農薬散布をする際は以下の仕様の散布ノズルを別途ご用意ください。
　吐出圧力　　１．５ＭＰａ
　吐出量　　１６Ｌ以下
散布ノズルは散布ノズルの取扱説明書に従って正しくお使いください。

● 薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

● この機械を動力噴霧機としてお使いになるときは動噴の吐出圧力を使用するノズルの仕様に合わせてください。（ノズルの取扱いに関してはノズルの取扱説明書に従ってください。）

● この機械を動力噴霧機としてお使いになるときは一般農薬を使用してください。
特殊農薬や多種農薬を混合したものを使用する場合はパッキンを特殊ゴム（バイトン）仕様のものに交換してください。
ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



農薬散布前の注意

- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 農薬を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 農薬が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。



農薬散布中の注意

- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗します。
- 農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。
- 農薬の散布はたいへん体力を消耗します。
  長時間の作業は避け、2時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中に入ることがあります。

⚠ 警　告

作業中や作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。



農薬散布後の注意

- ハウス内で防除作業を行なったときは、農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

⚠ 警　告

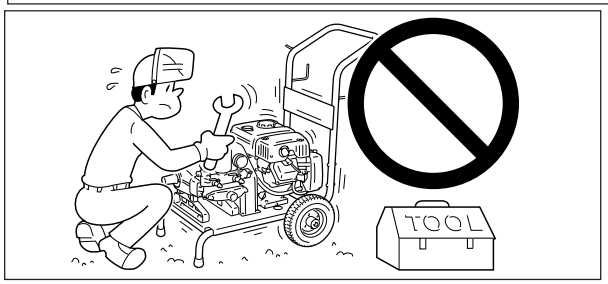
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。

点検・整備の注意

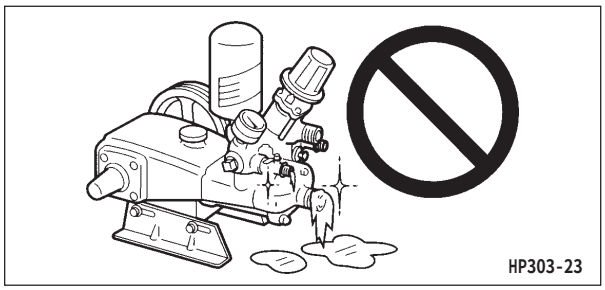
● この取扱説明書に従って点検・整備を行なってください。

重　要

本機を農薬の散布に使用したときは、散布作業後に必ず動噴および配管内を充分洗浄してください。洗浄が不充分な場合、動噴の寿命が短くなります。また、後に本機を洗浄機として使用するときに洗浄するものに農薬がかかることになります。



● 当社指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。



● 保管する前に必ず水を抜いてください。冬期に凍結することがあります。

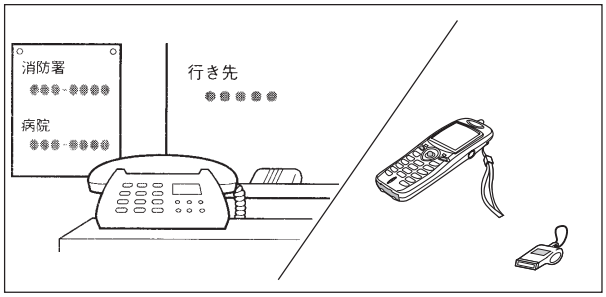
万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

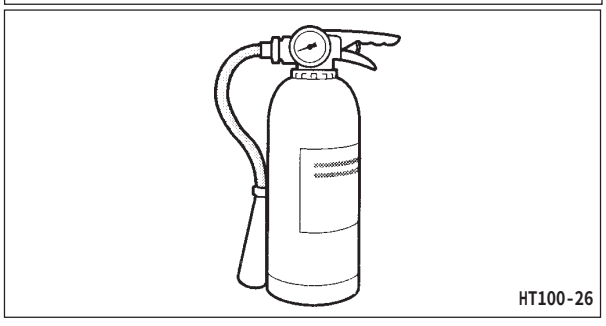


● 発火に対する備え

⚠ 警　告

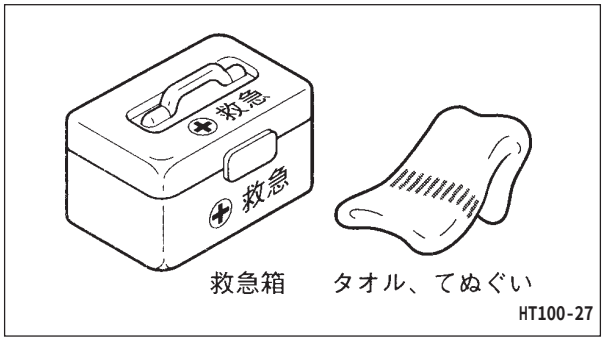
作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

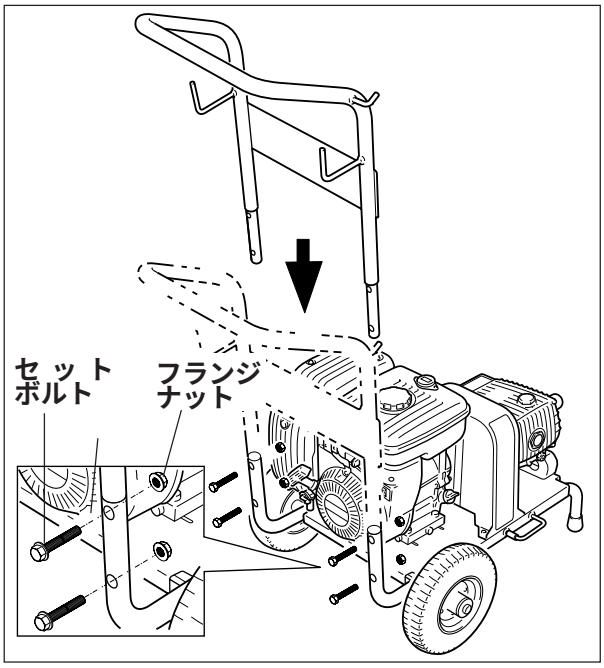


●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。



組　立

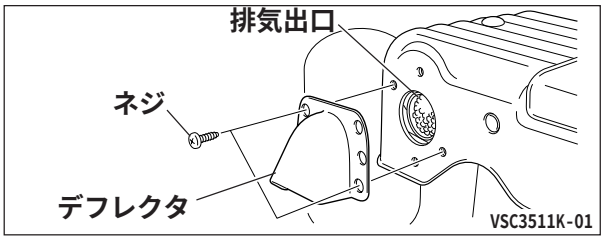


⚠ 注　意

手順に従って正しく組立てください。
特にネジ部の締付けは確実に行なってください。
使用中にネジが外れて思わぬケガをすることがあります。

● ハンドルの組立

本体とハンドルは分解された状態で梱包されています。
左図のようにセットボルトとフランジナットでハンドルを本体に組付けてください。



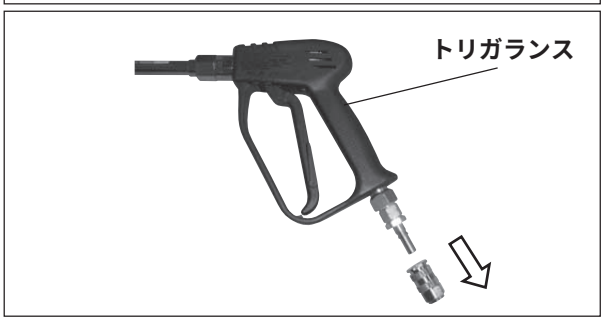
● デフレクタの取付け

＊ WE355K‥クボタエンジンの場合に行なってください。

エンジンのマフラ排気出口に付属のデフレクタをネジで下向きに取付けてください。

⚠ 注　意

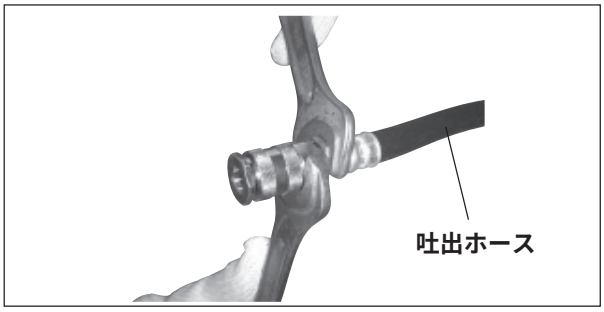
ワンタッチカプラは確実に接続してください。
使用中に吐出ホースが外れると思わぬケガをすることがあります。



●ワンタッチカプラの取り付け

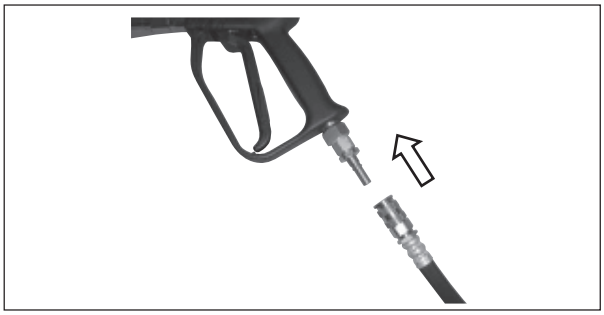
同梱されているトリガランスにはワンタッチカプラのオスとメスが付いています。左図のようにワンタッチカプラのメスを外します。

スパナ（サイズ１９）を使いワンタッチカプラのメスを吐出ホースに接続してください。



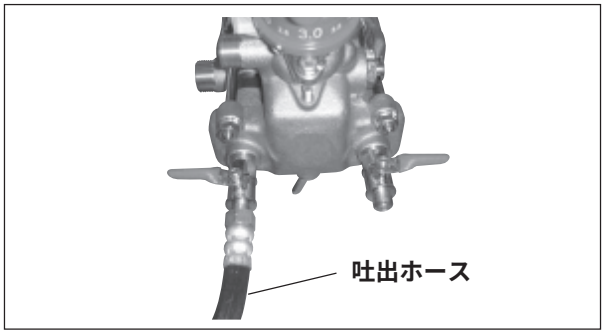
重　要

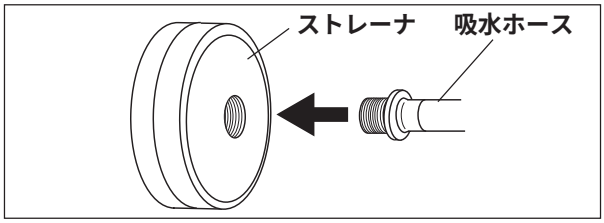
●ホースに接続する時は、締めすぎないでください。パッキンを損傷します。



● 吐出ホース、トリガランスの組付け

吐出ホースをトリガランスに組付けます。
左図のようにトリガランスを押し込み接続します。
接続が不完全だと、ワンタッチカプラがロックしていないため、吐出ホースが抜けてしまいます。ワンタッチカプラがロック状態になるまで確実に押し込んでください。





● 吐出ホースの接続

左図を参照して吐出ホースを本体に接続します。 吐出ホースを接続したら、吐出ホースをホース巻きに巻き付けトリガランスをトリガランス受けに掛けておきます。

⚠ 警　告

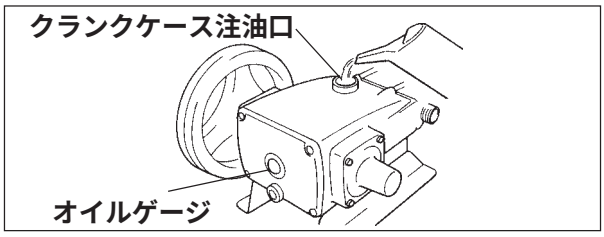
- ホースのヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化など、または接続金具のズレ、ゆるみ、漏れなどが認められたときは、直ちに新品に取替えてください。薬液の被爆を受け、思わぬ傷害を受ける恐れがあります。
- ホースは適正圧力範囲内で使用してください。ホース破損などの事故を招く恐れがあります。

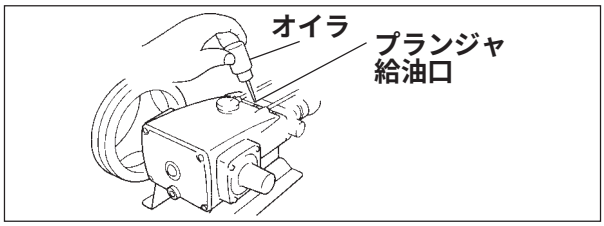
重　要

- 吐出ホースの接続口は２ヶ所ありますが、吸水ホース側から見て左の方に接続してください。（左図参照）もう一方の接続口は使用しません。
- ホースを接続するときは、締めすぎないでください。締めすぎるとパッキンを損傷します。

● 吸水ホースとストレーナの組付け

左図を参照して吸水ホースにストレーナを組付けます。





動噴の準備

● オイルの補給

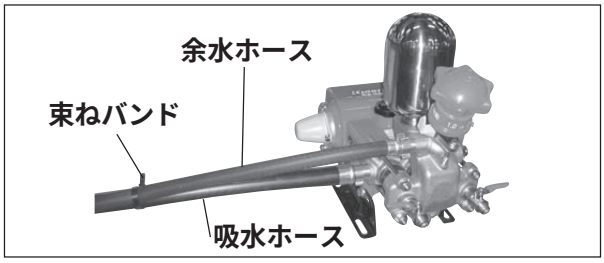
１．クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルは、ＳＣ、ＳＤまたはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用してください。マークより多く入れると、運転中にオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

２．付属のオイラの先を切り、プランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。給油により、プランジャのシールの寿命が長くなります。

● ホースの接続

重　要

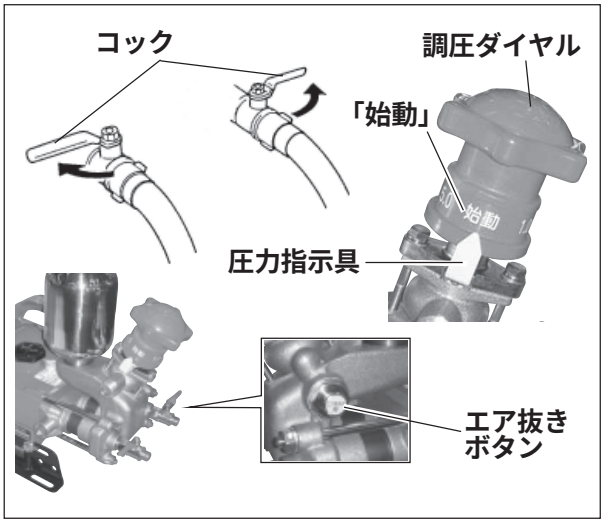
- 吐出口の継手ネジはＩＳＯ規格です。旧タイプのネジを使用する場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- ホースを接続するときは、強く締めすぎないでください。パッキンを損傷することがあります。



１．吸水ホース、余水ホースをそれぞれ吸水口、余水口へ接続してください。
吸水ホースはエアを吸込まないように、きちんと接続してください。

２．吸水ホース・余水ホースの先端から１mくらいのところを、付属の束ねバンドで束ねてください。（左図参照）

運　転



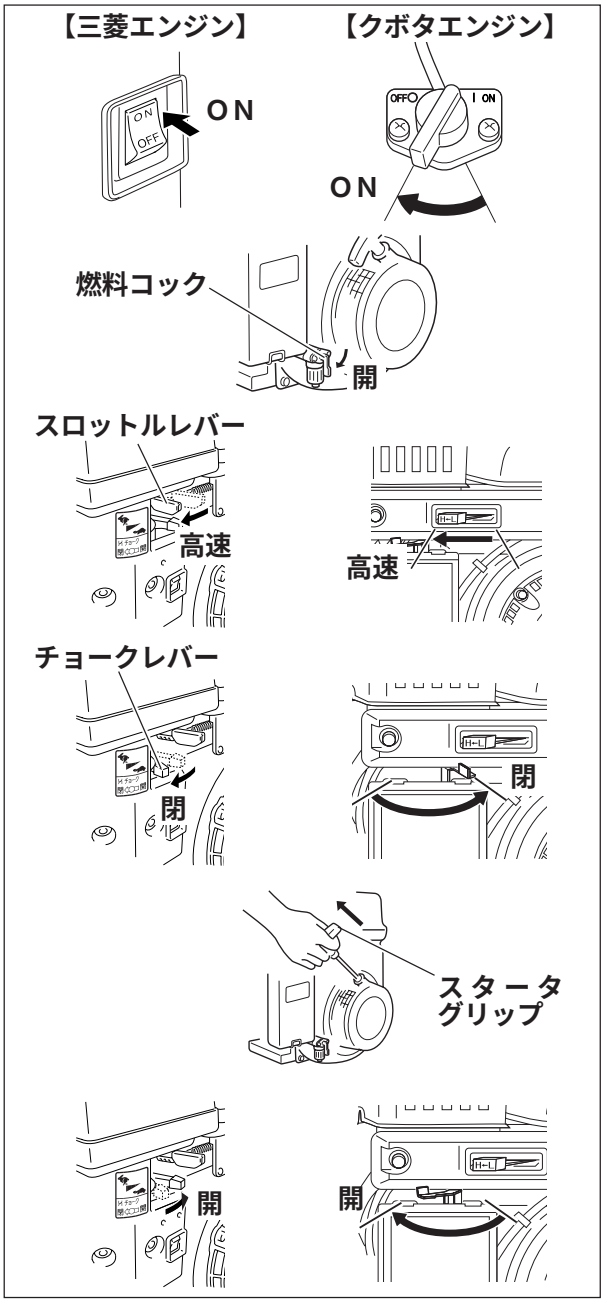
エンジンを始動するまえに

1．吐出口のコックをすべて閉めておきます。

2．圧力指示具に、調圧ダイヤルの「始動」の位置を合わせます。

3．エア抜きボタンを押し込みます。

4．吸水ホースと余水ホースの先端を、水または薬液の中に入れておきます。



エンジンの始動

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

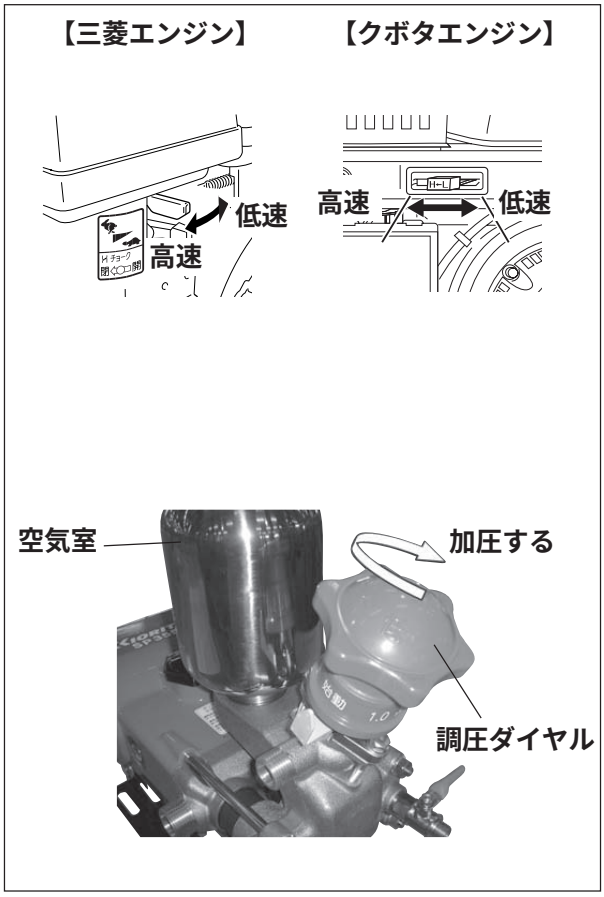
1．エンジンスイッチを「ON」にします。
2．燃料コックを開けてください。

3．スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。

4．チョークレバーを「閉」へ動かします。
5．スタータグリップをしっかり握り、いきおいよく引いてください。

6．エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。

＊　**搭載しているエンジンにより、異なるタイプがあります。またここでは詳細に解説していませんので、エンジンについては付属のエンジンの取扱説明書に、必ず従ってください。**



エンジンが始動したら

１．エンジンが始動すると、動噴内に水または薬液が循環し、余水ホースからいきおいよく水または薬液が出てきます。余水ホースから水または薬液が出ているかを確認してください。

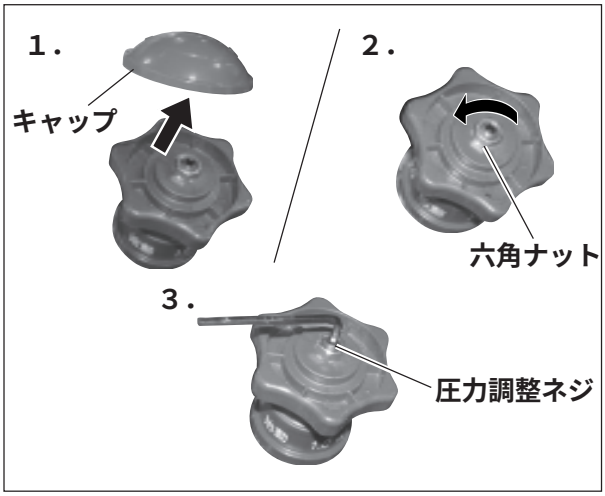
２．スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」側へ、下げるときには「低速」側へ動かしてください。

＊ **搭載しているエンジンにより、異なるタイプがあります。またここでは詳細に解説していませんので、エンジンについては付属のエンジンの取扱説明書に、必ず従ってください。**

３．必要な圧力まで調圧ダイヤルを回してください。
調圧ダイヤルのノッチは、
１段目は約1MPa(約10kgf/㎠)で、２段目以降は約0.5MPa(約5kgf/㎠)ずつ変化します。

重　要

●ＷＥ３５５に搭載している動噴（SP355）は、4.0MPa(40kgf/㎠)仕様です。
●農薬を散布する場合は使用するノズルの仕様に合わせて圧力を調整してください。ただし、動噴の仕様を超える圧力には設定しないでください。



圧力調整の手順

＊ **動噴の圧力が低下し圧力調整が必要なときは、次の手順で圧力調整を行なってください。**

１．吐出コックをすべて閉め、エンジンを始動してから、マイナスドライバなどで調圧ダイヤルのキャップを外します。
２．圧力調整ネジを固定している六角ナットをゆるめてください。
３．圧力調整ネジを六角レンチで回して調整してください。右に回すと圧力が上がり、左に回すと圧力が下がります。
４．調整が終了したら、六角ナットを締付け、キャップを元に戻してください。

噴霧作業の開始・停止

⚠ 警　告

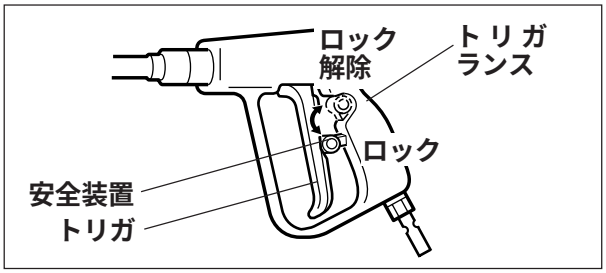
人、動物、電気製品、本機にトリガランスの先を向けないでください。

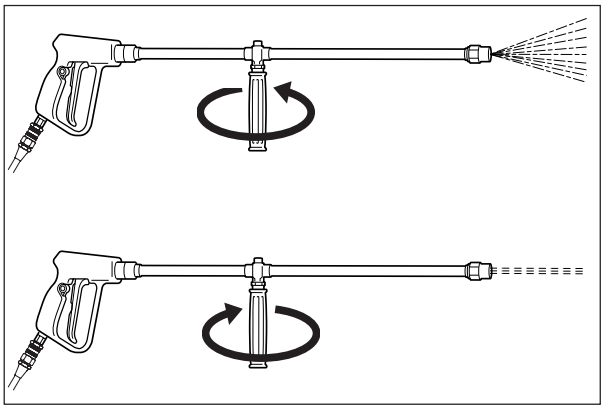
⚠ 注　意

最初の数秒間、ホース内の空気が抜けます。
反動がきたとき、思わぬ方向へ動くことがありますので、トリガランスをしっかり保持してください。

⚠ 注　意

- 動噴やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行なってください。





重　要

- 薬液を散布した後は動噴の内部、ホース、ノズルの清掃を充分にしてください。
- 動噴の水抜き作業は、5分以上は行なわないでください。機械が故障する原因になります。

重　要

- 5分間以上、カラ運転をしないでください。
  動噴の寿命を縮め、故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。
- 長時間使用するとエアチャンバの空気が水や薬液に溶け、抜けてしまうことがあります。
  動噴の故障の原因となりますので、2時間毎に必ずストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。

トリガランス

（洗浄機として使用）
トリガランスのトリガを引くと水を噴射します。
トリガランスには安全装置がついています。安全装置をロックの位置にすると、噴射できない状態でトリガをロックします。作業をしないときは、誤って噴射することが無いように安全装置をロックの位置にしてください。

噴射パターンの変更

噴射パターンはグリップを回すことにより調節できます。（左図参照）

農薬の散布

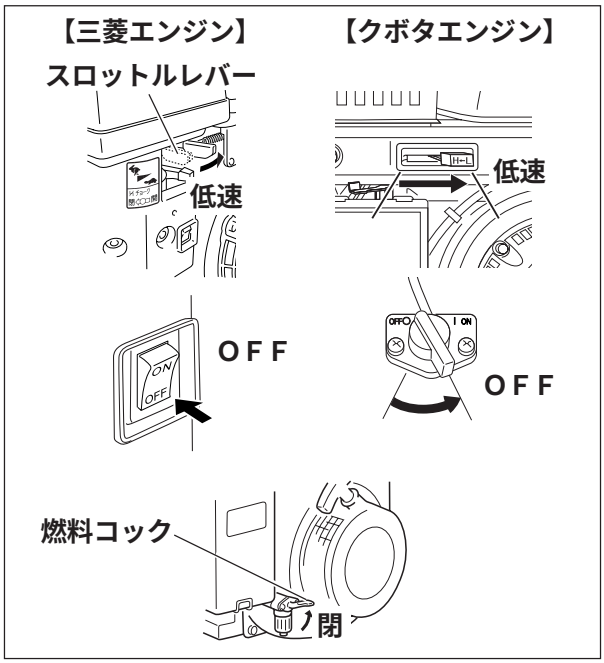
農薬を散布する場合は、別途目的に合ったノズルをご用意ください。また、ノズルの取扱いにつきましては、ノズルに付属の取扱説明書に従ってください。

噴霧作業の停止

トリガランスのトリガを戻して吐出を止めてから、調圧ダイヤルを戻し、吐出コックを閉めます。

作業が終わったら

1．吸水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、動噴の内部、ホース、ノズルなどの配管内の清掃を行ないます。
2．動噴内の水を抜くため、調圧ダイヤルを「始動」の位置にし、吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。
3．ストレーナを次回の作業のため、充分に清掃してください。



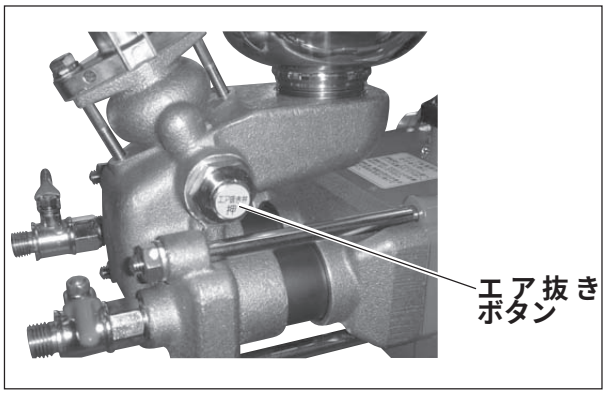
エンジンの停止

１．スロットルレバーを低速にします。

２．エンジンスイッチを「ＯＦＦ」（〇印）にしてください。

３．燃料コックを閉じます。

＊　**搭載しているエンジンにより、異なるタイプがあります。またここでは詳細に解説していませんので、エンジンについては付属のエンジンの取扱説明書に、必ず従ってください。**



エア抜きボタンについて

- この動噴にはエア抜きボタンが付いています。
- 動噴を始動する前にこのボタンを押すと、余水口へのバイパスが開き空気が抜けやすくなるため、吸水が短時間で行なわれます。吸水後はボタンが自動的に押し戻されバイパスが閉じます。
- 動噴の水抜き運転前にボタンを押すと、動噴内の水が早く抜けます。

重　要

- 噴霧作業中は動噴内部が加圧されているので、エア抜きボタンを押すことはできません。
- 動噴回転数が４００rpm以下のときは、エア抜きボタンが自動的に戻らない場合があります。その場合は、回転数を上げるか、手でボタンを引いてください。
- 一週間以上使用しなかったり、長期保管の後は、水や薬液などによりボタンがスムーズに動かない場合があります。あらかじめボタンを手で押し引きして、動くようにしてください。

輸送・移動時の注意

機械を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

- 必ずエンジンを停止する。
- 機械使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 機械に衝撃をあたえないようにする。

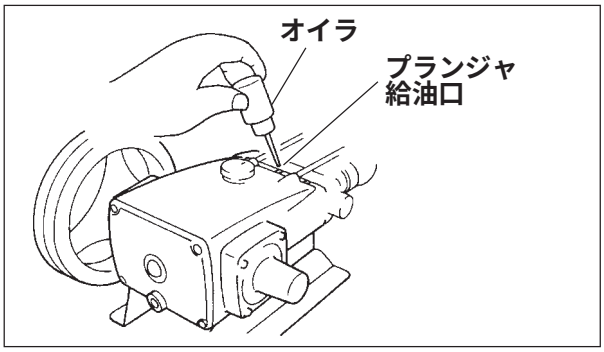
点検・整備

● お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。
● 点検・整備は、充分な広さがあり安定した場所で行なってください。
● タバコ、その他の火気は厳禁です。

重　要

●下表の期間に従って、点検・整備を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は、点検・整備の回数を増やしてください。
●この取扱説明書では動噴の点検・整備を解説しています。エンジンの点検整備は、エンジンの取扱説明書に従って、必ず実施してください。
●毎月、毎年の点検・整備を行なった日付を、記録してください。
● １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。

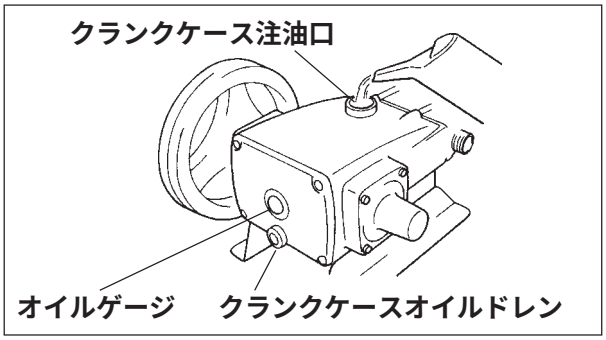
部 品 名	整備内容	整 備 時 期
プランジャ	給油	５～１０時間使用毎
クランクケース	オイル交換	初回は５０時間使用後、以降１００時間毎
調圧ダイヤルの周り	給油	使用時期前
エア抜きボタンの周り	給油	使用時期前
ピストンパッキン	点検・交換	使用時期前
継手パッキン	点検・交換	毎年
Ｖベルト	点検・交換	使用時期前
ホース類	点検・交換	使用時前



プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行なってください。）

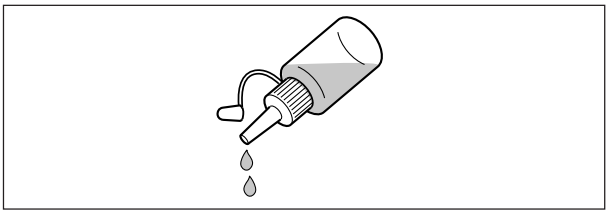
付属のオイラで、プランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。



クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

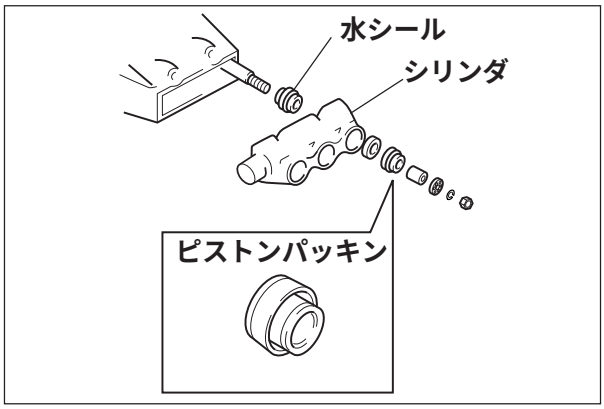
クランクケースのオイルはＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。



調圧ダイヤル周り、エア抜きボタン周りの給油

（使用時期前に行なってください。）

調圧ダイヤル周り、エア抜きボタン周りに、付属のオイラで適量を給油してください。

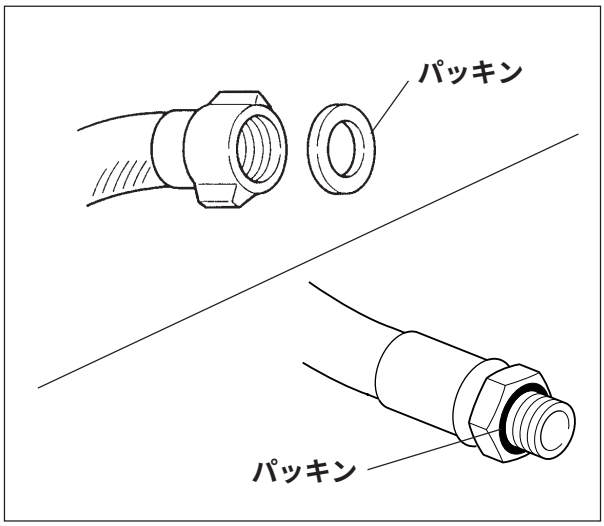


ピストンパッキン・水シール

（使用時期前に点検してください。）

使用時期前に点検します。長時間使用し、吸水しなくなったり圧力が上がらなくなったときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

＊　ピストンパッキンおよび水シールは、交換の際に向きを間違えないでください。



ホース類の点検

（使用毎に点検してください。）

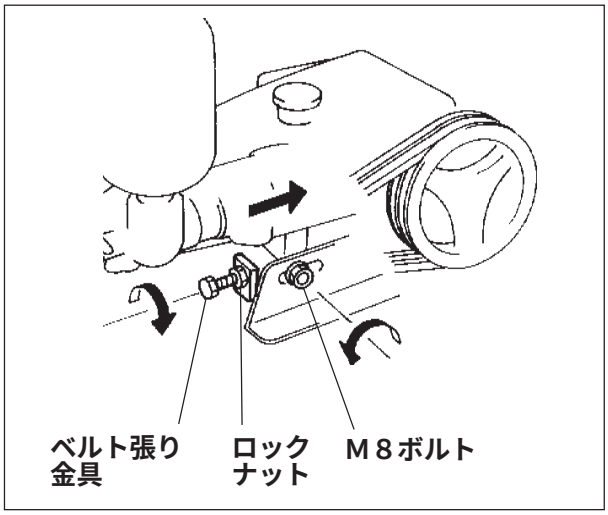
吸水ホース、余水ホース、スプレーホースの外観、継手パッキンの点検をしてください。

⚠ 警　告

ホースのヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化など、または接続金具のズレ、ゆるみ、漏れなどが認められたときは、直ちに新品に取替えてください。薬液の被爆を受け、思わぬ傷害を受ける恐れがあります。

重　要

ホースは古くなるにつれ硬化し亀裂などが起こりやすくなります。
使用前にホースの点検を実施してください。



Ｖベルト

（使用時期前に点検してください。）

使用時期前に点検し、損傷や摩耗していたら交換してください。
Ｖベルトが伸びるとスリップすることがあります。その場合は、次の手順でＶベルトの張りを調整してください。

１．動噴本体と架台を取付けているＭ８ボルト（２本）をゆるめます。
２．架台に付いているベルト張り金具のロックナットをゆるめ、ベルト張り金具（ネジ）を右に回して動噴本体を移動させます。
３．Ｖベルトの張りが適度なものになったら、２本のＭ８ボルトを締めて動噴を固定します。
４．その後、ロックナットを締めてベルト張り金具を固定してください。

＊　Ｖベルトは、張りすぎると動力ロスの原因となりますので、張りすぎないでください。

故障対策

重　要

●使用中に不具合が起きたときは、下表に従って調査のうえ対策を施してください。
●使用する補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因になる場合があります。
●点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
●その他表中に記載されていないトラブルの場合など､ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。

不具合事項	原　因	対　策
吸水しない、または途中から吸水しなくなる	吸水ホースの破損、折れ曲がり	破損は交換。折れ曲がりはのばす
	吸水ホースとニップルの締付不良	パッキン確認後、充分締めなおす
	パッキンの損傷または脱落	パッキン交換
	吸水ストレーナの水面浮上	浮上がらないよう固定
	吸水ストレーナ周囲にゴミ付着	ゴミの除去、清水にて洗浄
	吸・排水弁に砂・ゴミ付着	清水にて洗浄
	吸・排水弁の摩耗	すり合わせ、または新品と交換
	吸・排水弁の固着	弁と弁座の合わせ面の洗浄
	水シールの摩耗	新品と交換
	シリンダ、弁室の締付ナットゆるみ	ナットを交互に増し締め
	空気を吸ったままで加圧状態	調圧ダイヤルを戻し、エア抜きボタンを押す
余水から気泡が出る	吸水ホースの取付ネジゆるみ	パッキン確認後、充分締めなおす
	吸水ホース用パッキンの摩耗・損傷	新品と交換
	吸水ホースに穴あき	テープを巻いて補修、または交換
	シリンダ、弁室の締付ナットゆるみ	ナットを交互に増し締め
	水シールの摩耗	新品と交換
圧力が上がらない	調圧弁・弁座の合わせ面にゴミ付着	清水にて洗浄（弁座は表・裏の両面使用可）
	調圧弁・弁座の摩耗	著しい場合は新品と交換
	ノズル噴霧量が多く、余水がない	全吐出量の１０％以上を余水に戻すようノズルを交換する
	ピストンパッキンの摩耗	新品と交換
	エア抜きボタンが押された状態	手動で押し引きを繰り返す
圧力の変動が大きい	吸水ストレーナ周囲にゴミ付着	ゴミの除去、清水にて洗浄
	吸水ホースの折れ曲がり	折れ曲がりをなおす
	吸・排水弁の変形・損傷	新品と交換
	調圧弁・弁座の合わせ面にゴミ付着	清水にて洗浄
	調圧弁・弁座の損傷	すり合わせ、または新品と交換
	Ｖベルトのスリップ	ベルト張りの調整
	原動機の回転にムラがある	原動機の点検・整備
	空気を吸込んでいる	ホース金具の締めなおし。パッキンの確認
	空気室内の空気が抜けきって、エアクッションがなくなっている	吸水ストレーナを空中に取出し、余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる
	ピストンパッキンの摩耗および破損	新品と交換

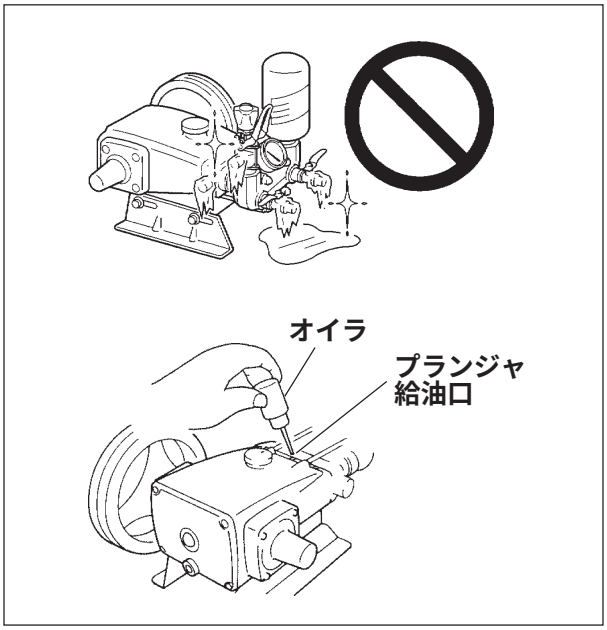
故障対策（続き）

不具合事項	原　因	対　策
圧力を調整したのち、噴霧を始めると圧力の降下がはげしい	下記のいずれかの原因で、余水量が吸水量の１０%以下（吐出過多） A）動噴回転数の不足 B）噴口の摩耗による吐出過多 C）噴頭数が多すぎる 調圧弁抑えの動きが悪い 調圧弁・弁座の摩耗	 回転を上げる 噴口を新品と交換 数を減らす 分解・掃除 著しい場合は新品と交換
クランクケース内で、異常な音がする	連接棒の締付ボルトのゆるみ プーリとキーとのガタ クランクケース内の部品の脱落破損 ベアリング破損	増し締め 交換 点検・清掃後、補充・交換 新品と交換
クランクケース内に、薬液が入る	プランジャ用オイルシールの不良 プランジャの不良	新品と交換 新品と交換
圧力は下がらないが、余水量が多くノズルから出る量が少ない	散布(吐出)ホースが長すぎる 散布(吐出)ホースが細すぎる	ホースを短くする （圧力降下表２５ページ参照） ホースを太くする （圧力降下表２５ページ参照）

長期保管

重　要

●冬期間、水が凍結する恐れのある地域では、必ず水抜きを行なってください。
● ５分間以上のカラ運転をしないでください。
●凍結による不具合などは、メーカの責任外となりますのでご注意ください。



長期保管の手順（３０日以上）

製品を長期間（３０日以上）保管する場合は、必ず以下の手順に従ってください。

１．水抜き
　きれいな水を数分間噴霧し、配管内部を洗浄してください。それから吸水ホースを外して1分間カラ運転を行ない、完全に水抜きしてください。

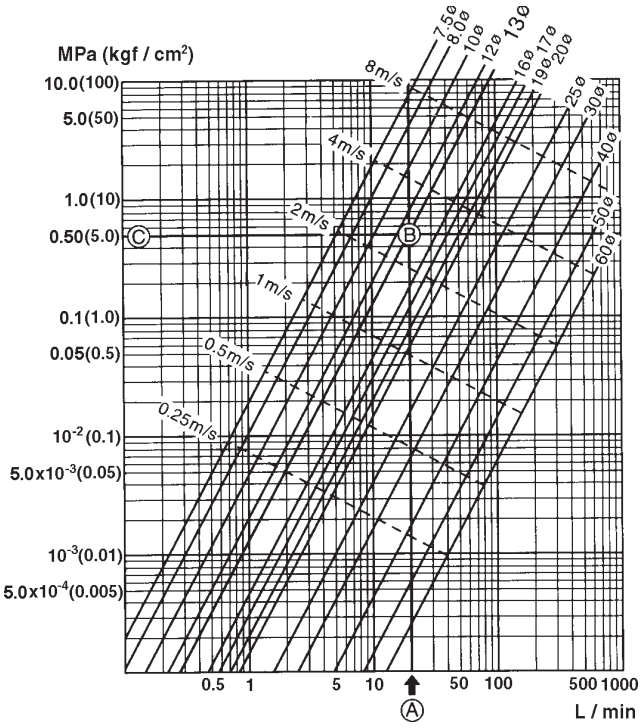
２．給油
　付属のオイラで、プランジャ給油口からオイルを１０滴ほど給油してください。

３．エンジン
　エンジンの取扱説明書に従って、エンジンの保管手順を実施します。

４．保管場所
　製品を乾かし、以下の場所に保管してください。
　・直射日光、熱、火気にさらされない。
　・湿気、ホコリが少ない。
　・子供の手が届かない。
　・安定している。

●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

吐出ホースの圧力降下図表



・このヘッドロス図表はホース１００mが基準です。

・内径１３㎜のホース１００ｍを使用し毎分２０Lの水を流した場合の圧力降下を調べる場合は

Ⓐ ２０Lの縦線を上方へ上がってゆく。

Ⓑ 斜線の１３φの線を出し降下圧力を読みとる。

Ⓒ この交点より横に線を出し降下圧力を読みとる。

従ってこの場合の降下圧力は約０．５MPa（約５．０kgf/㎠）となる。

〈計算式〉

$$h = f \frac{V^2}{2g} \cdot \frac{100}{D}$$

ｆ＝摩擦損失係数：０．０２

Ｖ＝流速（m/s）

ｇ＝重力加速度９．８（m/s²）

Ｄ＝パイプ内径（m）

ｈ＝１００m当たりの圧力損失水頭（m）

・一般に圧力の降下は‥‥

① 流速の二乗に比例する。
流速はホース断面積に反比例する。

② 長さに比例する。

・以上の外、ホース内面が粗い程大きく、コック、ホース継手でも圧力降下がある。

ホース１００ｍ当たりの圧力降下・MPa(kgf/㎠)

		ホース内径(㎜)　呼び					
		8.5 (2分5厘・5/16")	10 (3分・3/8")	13 (4分・1/2")	16 (5分・5/8")	19 (6分・3/4")	25 (インチ・1")
流量 (L/min)	5	0.25(2.5)	0.12(1.2)				
	10	1.10(11.0)	0.45(4.5)	0.14(1.4)	0.05(0.5)	0.02(0.2)	
	15	2.20(22.0)	0.90(9.0)	0.25(2.5)	0.09(0.9)	0.04(0.4)	
	20		1.80(18.0)	0.50(5.0)	0.19(1.9)	0.08(0.8)	0.02(0.2)
	30			1.30(13.0)	0.40(4.0)	0.18(1.8)	0.04(0.4)
	40			2.20(22.0)	0.72(7.2)	0.32(3.2)	0.07(0.7)
	50			3.40(34.0)	1.20(12.0)	0.48(4.8)	0.13(1.3)
	60				1.70(17.0)	0.70(7.0)	0.17(1.7)
	80				2.80(28.0)	1.30(13.0)	0.30(3.0)
	100						0.45(4.5)
	150						0.90(9.0)

■ 吐出し揚程による圧力降下

・上記ホースによる圧力降下のほかに、動噴の置かれている場所とノズルで散布している場所の高さの差（揚程：H）によっても圧力降下が加算されます。

〈計算式〉

$$P = \frac{H}{102} \qquad P' = \frac{H}{10}$$

Ｐ＝高さの差による圧力降下：MPa

Ｈ＝高さの差：m

Ｐ'＝高さによる圧力降下：kgf/㎠

仕　様

項　目			単 位	WE355	WE355K
長さ×幅×高さ （ランス、ホースを除く）			mm	８３０×５７０×８３０	
※ 質　量			kg	３４	
動噴	型　式		－	ＳＰ３５５	
	回転数		rpm	８３０	
	常用圧力		MPa(kgf/cm²)	４．０（４０）	
	吸水量		L/min	２４．３	
	プランジャ数		－	３	
	調 圧 弁		－	ダイヤルノッチ式	
	潤滑油容量		L	０．６５	
	吐出	ホース	φmm×m	８．５×１０	
		継手ねじ	ねじの呼び	Ｇ（ＰＦ）１/４	
	吸水	ホース	φmm×m	１９×３	
		継手ねじ	ねじの呼び	Ｇ（ＰＦ）３／４	
	余水	ホース	φmm×m	１３×３	
		継手ねじ	ねじの呼び	Ｇ（ＰＦ）１/２	
エンジン	型　式		－	三菱ＧＢ１３０ＬＮ	クボタＧＲ１３０－Ｅ－Ｇ
	排気量		mL	１２６	１２５
	最大出力		kW(PS)／rpm	３．０（４．２）／２０００	３．２（４．３）／２０００

※質量：燃料、オイル、ホース類を除く
この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-010 37 1
X750612-05 01

0705Aj 0631 ES

© 2007 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。